



## 安心安全な地域・学校づくりを目指して

校長 土屋 貴俊

9月2日の休校対応ありがとうございました。台風10号は、「最強クラス」「のろのろ」と言われ、台風と離れた場所にも大きな被害をもたらしました。幸いにも子供たちの周りでは影響がなかったと聞き、ほっとしています。

今回のような台風が今後増えるだろうと言われています。事前の準備や対応、心構えがさらに大切になるかと思えます。

また、8月8日の南海トラフ地震注意情報を受け、学校では非常時の動きを職員で再確認しました。多くのご家庭において、備蓄品の点検や連絡の取り方、避難場所等についてご家族で話し合われたと聞いています。

実際の発災を考えると、学校だけでは即決できないこともあり再考しているところです。子供が在校中に地震が発生し、今回のような情報が発信された場合でも子供たちの不安な思いに寄り添いながら保護者の皆様に安全に引き渡せるようにします。そのためにも避難訓練や防災教育を充実させて、自分で考え判断し行動できることが求められます。

5年生は1学期から静岡県ジュニア防災士資格の取得を目指し、伊豆の国市危機管理課のご指導で次のような学習をしてきました。①災害の種類と被害 ②ハザードマップで学校や自宅の周りの危険個所の確認 ③災害時判断ゲーム(クロスロード) ④9月6日には、「チーム防災いずのくに」の皆様のご指導でタオルを使った防災頭巾づくりを行いました。それには軍手・使い捨てカイロ・簡易食などを縫い合わせておき、いつでも最低限必要なものをもって逃げられるようになっています。

クロスロードは、発災時に起こる課題に焦点をあて、どのように考えどのように行動するかを問われるものです。一つ例を挙げると次のようなものです。

Q あなたは市民 非常袋を持って避難所に避難してきました。しかし周りの人は、水も食料もありません。空腹なあなたは、その人たちの前で、水や食料が入った非常袋を開けられる？ **YES:開けられる NO:開けられない**

この問いには、正解はありません。このような判断を非常時に求められます。子供たちは理由をつけて自分の考えを言い合いますが、友達の判断理由を聞いてそんな考え方もあるのかと災害時の行動について見つめ直すきっかけとなります。予め起こりそうな問題を知り、見通しをもったり、準備したりするだけでも安心につながります。

今後5年生の子供たちは、静岡県ふじのくにジュニア防災士として ①南海トラフ地震や



チーム防災いずのくにの皆様による頭巾づくり

台風等の風水害、火山噴火などの災害から自らの身を守ることができる ②家庭の防災対策を率先して考える『家庭の防災リーダー』となる ③地域の防災活動に積極的に参加し、将来『地域の防災リーダー』となることが期待されています。

毎年このジュニア防災士を育成していくことで、命を守る行動をとれるリーダーが生まれます。家庭や地域で活躍できるようになることを願っています。